

林業試驗場

研 究 報 告

No. 11

1 9 6 8 年 6 月

琉 球 政 府

目 次

鹿児島産スギ精英樹の導入試験 ----- 1

上 地 豪

リュウキュウマツの育苗における用土の適否試験(才3報) ----- 10

上 地 豪

琉球林業試験場構内の植物 ----- 19

真栄城 守 金

鹿児島産スギ精英樹の導入試験

上 地 豪

1. は し が き

スギは日本特産の針葉樹で日本に於ける分布の北限は青森県矢倉山国有林のおよそ北緯 $40^{\circ} 42'$ 、南限は九州屋久島の北緯およそ $30^{\circ} 15'$ である。

本試験は鹿児島県林業試験場で15本の精英樹から挿木養成された苗木をそれぞれ20本ずつ分譲していただき、日本のスギ精英樹の導入を試みた1年間の結果である。試験を実施するにあたり貴重な苗木を快良く分譲下さった鹿児島県林業試験場に対し衷心より厚くお礼申し上げる。

なお直接に分譲折衝、その他輸送の労をとられた本場造林研究室長国吉清保氏、現地調査に協力していただいた職員安次富長清氏に感謝の意を表する。

2. 試験地の概況

試験地は當場、南明治山試験林地内に設定した。西向に走行する小川に沿い、西向又は北向の $2^{\circ} \sim 7^{\circ}$ の緩傾斜地の細長い3つの団地である。

地質は粘板岩風化の埴質壤土である。植栽前は、イタジイ、エゴノキを主体とした広葉樹林であった。

なお試験地の1年間の気象観測の結果は年平均気温 21.3°C 、年間降雨量 2013.8mm である。

3. 試験方法

(1) 供試品種

鹿児島県林業試験場より移入したスギ精英樹の15クローンは次のとおりである。

才1表 スギ精英樹クローン明細表

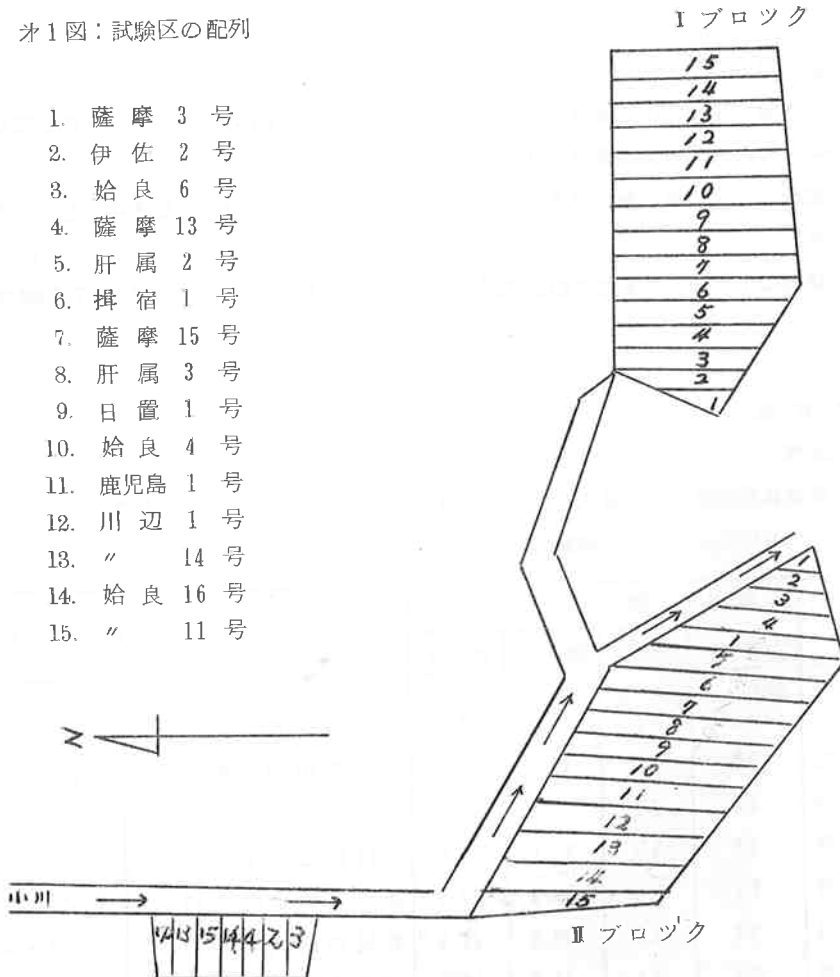
精英樹名	精英樹 設定年度	設 定 時			所 在 地	備 考
		樹 令	胸高径	樹 高		
県伊佐2号	昭和 32	年 35	cm 44.5	m 23.5	大口市平泉	
川辺1号	30	32	40.0	23.0	川辺郡川辺町野崎	オビ系
“ “ 14号	30	22	35.0	15.5	“ “	
日置1号	30	30	45.0	24.0	日置郡山町東俣	
肝属2号	31	28	40.0	20.0	鹿屋市大浦町大浦	キジン系
“ “ 3号	32	27	38.5	24.0	肝属郡田代町川原	オビアカ系
薩摩13号	32	31	36.0	18.0	川内市青山町青山	

県揖宿 1 号	35	45	36.0	16.0	揖宿市東方	メアサ系
“ 始良 11 号	31	50	46.0	28.0	始良郡始良町寺師	ヤマダグロ系
“ “ 16 号	32	24	37.8	18.5	“ 霧島町田口	
“ “ 4 号	31	31	46.0	23.0	国分市重久	オビ系
“ 薩摩 15 号	32	31	28.0	16.0	川内市青山町青山	
“ 始良 6 号	29	30	50.0	23.0	始良郡蒲生町北	オビアラカワ系
“ 薩摩 3 号	31	29	46.0	17.0	薩摩郡東郷町藤川	
“ 鹿児島 1 号	29	29	25.0	14	鹿児島郡吉田村大字宮之浦	メアサ系

(2) 試験区の配列

試験区の配列の状況は次に示す図のとおりである。

オ1図：試験区の配列



(3) 試験区の大きさ、植栽本数

Iブロックの試験区の大きさは412㎡、植栽本数は118本、同一クローンを7～10本、一列に植栽した。

IIブロックの大きさは448㎡で182本、Iブロックと同じ方法で植栽した。

(4) 植栽

植栽は1967年3月6～7日におこなった。なお苗木は鹿児島で2月23日に堀取り、2月25日に沖縄当場に到着、ただちに当场苗畑に仮植して植栽日をまつた。

(5) 保育管理

保育管理は下刈を2回5月と11月におこなった。

4. 試験成績と結果

(1) 活着率

活着率は表2表に示すとおり90～100%で良好な成績である。したがって各クローン間には大差はないが、日置1号、川辺14号、始良16号がそれぞれ2本枯死し10%の枯死率、薩摩3号、始良6号、肝属3号がそれぞれ1本で5%の枯死率を示した。

この原因については輸送、荷づくり、仮植などの原因で植栽当初から苗木自体が衰弱していたため、植栽の翌月に枯死したものと、一度活着し伸長を始めたが、何らかの環境因子の変化によって枯死したものとに分けられる。

前者の原因によるものに日置1号の1本、始良16号の2本、始良6号の1本、川辺14号の1本の計5本、後者の原因によるものには肝属3号の1本、薩摩3号の1本、日置1号の1本、川辺14号の1本の計4本である。

表2 活着率

精 英 樹 名	植 付 本 数	活 着 本 数	活 着 率 %	精 英 樹 名	植 付 本 数	活 着 本 数	活 着 率 %
伊 佐 2 号	20	20	100	始 良 11 号	20	20	100
川 辺 1 号	20	20	100	“ 16 号	20	18	90
“ 14 号	20	18	90	“ 4 号	20	20	100
日 置 1 号	20	18	90	薩 摩 15 号	20	20	100
肝 属 2 号	20	20	100	始 良 6 号	20	19	95
“ 3 号	20	19	95	薩 摩 3 号	20	19	95
薩 摩 13 号	20	20	100	鹿 児 島 1 号	20	20	100
揖 宿 1 号	20	20	100				

調査期間：1967.3~1968.3

表3 英才表 月別成長調査表

精英樹名	調査月日		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	区	分	cm												
伊佐	2	号	39.6	41.5	42.6	46.9	49.4	51.5	54.8	55.7	57.1	57.2	57.4	57.4	57.4
川辺	1	号	-0.71	56.4	57.4	60.2	62.7	65.6	70.8	74.1	74.7	74.9	79.7	79.8	79.9
〃	14	号	-0.74	61.6	62.4	63.4	63.6	64.9	67.4	70.8	72.0	72.5	72.6	72.7	72.8
日置	1	号	-0.72	46.8	47.4	50.2	52.5	54.6	56.5	58.4	60.1	60.4	60.5	60.9	61.0
肝属	2	号	-0.73	43.9	45.1	50.7	54.5	57.6	63.2	67.2	68.4	68.8	69.1	69.2	69.2
〃	3	号	-0.69	52.3	53.8	57.2	58.2	59.9	62.1	63.1	63.8	64.2	64.2	64.3	64.5
薩摩	13	号	-0.70	39.5	43.9	44.6	48.3	52.0	57.2	60.7	62.5	62.9	63.2	63.3	63.4
揖宿	1	号	-0.68	51.9	53.1	55.5	58.0	60.3	64.3	67.2	68.5	68.8	69.0	69.0	69.2
始良	11	号	-0.72	65.3	67.3	69.8	69.9	70.9	73.6	74.4	74.8	75.7	75.8	76.0	76.0
〃	16	号	-0.84	67.4	68.6	71.4	74.2	76.5	81.4	84.0	84.5	85.0	85.1	85.2	85.2
〃	4	号	-0.79	45.6	47.0	53.3	56.6	60.4	68.6	74.3	75.8	76.0	76.1	76.1	76.1
薩摩	15	号	-0.77	40.7	41.6	45.4	50.0	54.4	58.4	60.3	60.5	60.9	61.0	61.1	61.2
始良	6	号	-0.76	48.8	50.4	53.5	57.4	61.5	67.9	71.2	72.8	73.1	73.1	73.2	73.3
薩摩	3	号	-0.72	49.9	51.4	54.3	55.7	57.9	60.9	64.4	66.4	66.7	66.8	67.1	67.1
鹿尻島	1	号	-0.65	54.2	55.6	59.2	61.7	65.1	68.3	70.4	70.8	71.3	71.4	71.4	71.4
			-0.78				0.85	0.86	0.88	0.89	0.89	0.90	0.90	0.90	0.93

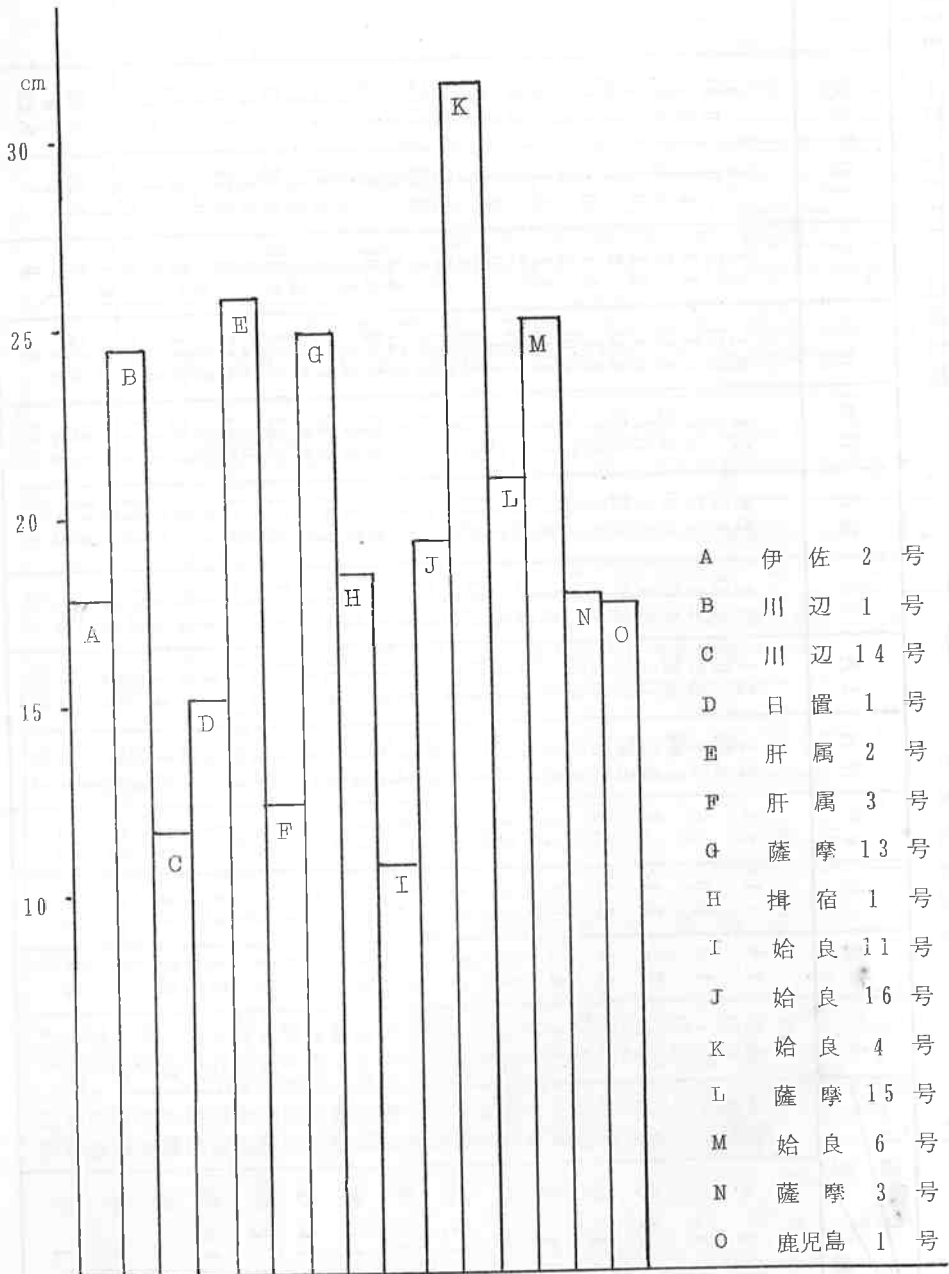
調査期間：1967. 3~1968. 3

表4 月別成長量調査表

精英樹名	調査月日 区分	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間総成長量
		cm													
伊佐	2号	39.6 0.71	1.9	1.1	4.3	2.5 0.03	2.1 0	3.3 0.01	1.9 0.01	0.4 0	0.1 0.01	0.2 0	0 0	0 0.03	17.8 0.09
川	1号	55.4 0.74	1.0	1.0	2.8	2.5 0.06	2.9 0.02	5.2 0.05	3.3 0.01	0.6 0.02	0.2 0.02	4.8 0	0.1 0.02	0.1 0.02	24.5 0.22
"	14号	61.1 0.72	0.5	0.8	1.0	0.2 0.02	1.3 0.01	2.5 0.03	3.4 0.01	1.2 0.02	0.5 0.01	0.1 0	0.1 0	0.1 0.06	11.7 0.16
日置	1号	45.8 0.73	0.7	0.9	2.8	2.3 0.02	2.1 0.01	1.9 0	1.9 0	1.7 0.03	0.3 0.01	0.1 0	0.4 0	0.1 0.01	15.2 0.08
肝	2号	43.4 0.69	0.5	1.2	5.6	3.8 0.03	3.1 0.02	5.6 0.03	4.0 0.01	1.2 0	0.4 0.04	0.3 0	0.1 0	0 0.03	25.8 0.16
"	3号	52.1 0.70	0.2	1.5	3.4	1.0 0.05	1.7 0.01	2.2 0.03	1.0 0.01	0.7 0.01	0.4 0.02	0 0	0.1 0	0.2 0.02	12.4 0.15
薩摩	13号	38.5 0.68	1.0	4.4	0.7	3.7 0.04	3.7 0	5.2 0.02	3.5 0	1.8 0.01	0.4 0.01	0.3 0	0.1 0.01	0.1 0.03	24.9 0.12
捍	1号	50.8 0.72	1.1	1.2	2.4	2.5 0.06	2.3 0.01	4.0 0.01	2.9 0.03	1.3 0.02	0.3 0.02	0.2 -0.01	0 0	0.2 0.02	18.4 0.18
始	11号	65.2 0.84	0.1	2.0	2.5	0.1 0.05	1.0 0.01	2.7 0.01	0.8 0.03	0.4 0.02	0.9 0.03	0.1 0	0.2 0.01	0 0.02	10.8 0.18
"	16号	65.9 0.79	1.5	1.2	2.8	2.8 0.1	2.3 0.01	4.9 0.03	2.6 0.02	0.5 0.02	0.5 0.02	0.1 0.01	0.1 0.02	0 0.01	19.3 0.24
"	4号	44.6 0.77	1.0	1.4	6.3	3.3 0.06	3.8 0	8.2 0.03	5.7 0.04	1.5 0.04	0.2 0.01	0 0	0.1 0.01	0 0.01	31.5 0.20
薩摩	15号	40.3 0.76	0.4	0.9	3.8	4.6 0.06	4.4 0	4.0 0.03	1.9 0	0.2 0.02	0.4 0.01	0.1 0	0.1 0	0.1 0.04	20.9 0.16
始	6号	48.1 0.72	0.7	1.6	3.1	3.9 0.09	4.1 0	6.4 0.02	3.3 0.04	1.6 0.01	0.3 0.02	0 0	0.1 0.01	0.1 0.03	25.2 0.22
薩摩	3号	49.2 0.55	0.7	1.5	2.9	1.4 0.05	2.2 0	3.0 0.04	3.5 0.02	2.0 0.03	0.3 0.01	0.1 0	0.3 0.01	0 0.05	17.9 0.21
鹿兒島	1号	53.8 0.78	0.4	1.4	3.6	2.5 0.07	3.4 0.01	3.2 0.02	2.1 0.01	0.4 0.01	0.5 0	0.1 0	0 0	0 0.03	17.6 0.16

オ 2 図

各クローンの年間総成長量



- A 伊 佐 2 号
- B 川 辺 1 号
- C 川 辺 14 号
- D 日 置 1 号
- E 肝 属 2 号
- F 肝 属 3 号
- G 薩 摩 13 号
- H 揖 宿 1 号
- I 始 良 11 号
- J 始 良 16 号
- K 始 良 4 号
- L 薩 摩 15 号
- M 始 良 6 号
- N 薩 摩 3 号
- O 鹿 兒 島 1 号

表 5 表 ブロック別の年間単木成長量 比較表

精 英 樹 名	単 木 成 長 量 cm		成 長 量 差 cm		備 考
	I ブロック	II ブロック	I ブロック	II ブロック	
伊 佐 2 号	16.3	18.0	0	1.7	
川 辺 1 号	25.1	37.0	0	11.9	
〃 14 号	17.8	12.4	5.4	0	
日 置 1 号	16.3	15.3	1.0	0	
肝 属 2 号	34.6	21.5	13.1	0	
〃 3 号	14.0	11.8	2.2	0	
薩 摩 13 号	25.2	32.7	0	7.5	
揖 宿 1 号	25.0	22.0	3.0	0	
始 良 11 号	9.5	15.7	0	6.2	
〃 16 号	13.7	32.0	0	18.3	
〃 4 号	33.7	29.5	4.2	0	
薩 摩 15 号	22.9	24.1	0	1.2	
始 良 6 号	33.0	28.6	4.4	0	
薩 摩 3 号	10.7	15.7	0	5.0	
鹿 児 島 1 号	18.3	19.3	0	1.0	
ブロック別 成長量合計	316.1	335.6	33.3	52.8	
ブロック別の 全体成長量差			0	19.5	

※ この表の単木とは同一クローンの1集団を意味し、したがって
成長量は同一クローン数本の平均値である。

(2) 成育状況

過去1年間の成育状況はオ4表、オ2図に示してあるとおりである。すなわち樹高成長では始良4号がずばぬけてよく、年間成長量31.5 cmを示し、もっとも成長の劣る始良11号との間に20 cmの差を生じた。

20 cm以上の年間成長量を示したものに肝属2号、始良6号、薩摩3号、川辺1号、薩摩15号があり、次いで始良16号、揖宿1号、薩摩3号、伊差2号、鹿児島1号、日置1号、肝属3号、川辺14号などである。そして始良11号がもっとも劣り、年間成長量は10.8 cmである。

もっとも成長の良い始良4号はオビス系で幼時の成長は良いが、壮令に至るとメアサ系に劣ると云われ本試験でも、もう一つのオビス系の川辺1号ともそろって良い成長を示し品種的特性をあらわした。

鹿児島1号、揖宿1号はメアサ系で本系統は晩生型で幼時の成長がやゝおそいが壮令後も良好な成長を続け、適地においては80年以後も壮令と変わらない成長を続けると云われる。本試験では中間的な成長を示した。

肝属2号のキジン系は幼時の成長が非常に良く、適応性が広く、比較的瘠地においても割合良い成長を示すと云われる。本試験地では始良4号についてオ2の成長量を示している。

始良11号はヤマダグロ系で、本系統は適応性が広く特に上長成長がすぐれていると云われるが、過去1年間の成長量では他のクローンに対してもっとも劣る成長である。

始良6号はオビアラカワ系で幼時の成長は極めて良好であると云われ、年間成長量25.2 cmでオ3位の成長である。

次に本試験地における月別の成長量をみてみると、4月頃から成長をはじめ以後10月まで上昇的な成長を続けている。又6~9月頃がもっとも重要な成長時期のようであり、この期間に1年間の総成長量の63.9%も成長している。11月以後は下降的な成長を続け、12月頃から3月頃まで1時成長休止期に入るようである。

なお、直径成長については成長量が小単位のため現時点での比較は適当でないと考えるので省略した。

次にIブロックとIIブロックの地力差による単木或はブロック別全体の成長量差はないかみてみると、オ5表に示すとおり全体的には19.5 cmとIIブロックの方が優位にある。

単木的には始良16号、肝属2号、川辺1号が各々ブロック間に10 cm以上の成長量差を示した。

ブロック間のスギの適地性についてみるとIブロックよりもIIブロックの方が地力、環境因子ともまさっていると思われるが、調査期間が短いため地力差による成長度はでないようである。

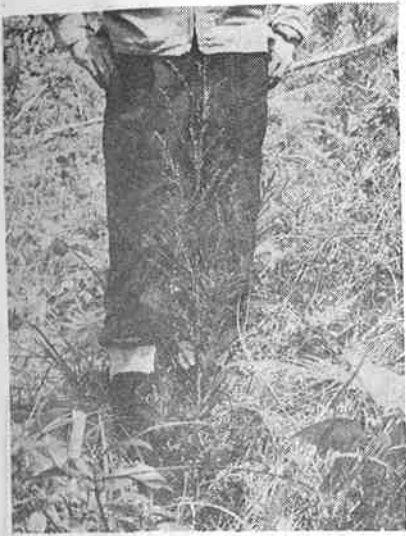
参 考 文 献

1. 上野一夫 鹿児島地の杉在来品種について
 林木の育種 No. 4 1958年
2. 河本典一 スギ在来品種導入試験
 山口県林業試験場業務報告 昭和41年

参 考 写 真

撮影 1968・4・5

始 良 4 号



川 辺 一 号



肝 属 2 号



始 良 11 号



リュウキュウマツの育苗における用土の適否試験(才3報)

上 地 豪

1. はしがき

才1報および才2報は旧首里本場において試験した結果であった。本試験は1966年10月名護町知真嘉原に移転した名護本場苗畑において試験した結果である。調査に協力していただいた稲福保男氏に感謝の意を表す。

2. 試験場所と立地条件

名護町知真嘉原林業試験場苗畑でおこなった。試験苗畑の周囲は本場の移転まもないため包護樹帯もなく、しかも高台であるため、風雨の吹きぬけのはげしい所である。

なお、試験期間中の気象概要を示すと次表のとおりである。

才1表 気 象 概 要

北部水理気象観測所調べ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
気 温 ℃	平均	14.3	15.0	18.0	22.4	25.2	26.5	29.0	28.8	27.2	24.1	22.5	14.4
	最高	17.5	17.9	20.9	24.8	27.2	28.3	31.1	30.9	29.4	26.2	24.7	17.7
	最低	10.7	10.9	13.0	18.9	20.9	23.7	25.8	24.0	22.0	19.5	19.0	10.6
降雨量mm	54.9	88.4	52.4	127.2	286.9	501	92.8	174.0	64.4	263.9	119.6	121.4	

3. 試験方法

1) 土壌の種類

供試土は次の4種類を深さ30cmを目標に入れ替えて使用した。

区分	土 壤 名	採 土 地
A	粘板岩土壌	名護岳
B	国頭礫層砂壤土	東村平良
C	古生紀石灰岩土壌	屋部村勝山
D	国頭礫層堆積質壤土	名護本場構内

調査回数
1
2
3
4
計

2) プロットの配列

ラテン方角法によって配列を行ない、処理数4個ずつの16プロットを設定した。

1プロットの面積は1㎡とした。

3) 育苗方法

- ㊶ まきつけ : 1967年1月24日
- ㊷ まきつけ量 : 1㎡当り7g(発芽率92%)
- ㊸ 事前処理 : 種子はまきつけ前にリオゲン1000倍液に12時間浸漬した。
- ㊹ 施肥 : 基肥、追肥ともおこなわなかった。
- ㊺ 管理 : 間引は7月24日に200本を目標におこない、最終間引は9月24日におこなった。なお最終床残本数は100本を目標にした。

4) 測定

- ㊻ 発芽調査は3月14日(まきつけ後48日目)より開始、以後1ヵ月1回調査し、6月24日まで4回にわたっておこなった。
- ㊼ 苗高調査は10月23日から1968年1月20日までの4回にわたり、1ヵ月1回の伸長調査をした。
- ㊽ 掘取調査は1プロットより標準と思われる苗木を10本ずつ抽出し、1968年1月22日より4日間にわたって表4表にかゝる項目に分けて調査測定した。

4. 調査結果

1) 発芽について

表1報、表2報と同様土壌の種類が発芽に与える影響は認められない。

表2 発芽状況及び枯損状況

A. 粘板岩土壌

調査回数	調査月日	正常に生育したもの A	枯損したもの B	発芽率 C = A+B	当月発芽したもの		全発芽に対する枯損(%)	当月発芽(%) 総発芽
					本数 D	D/C (%)		
1	3.14	505	(106)	611	611	100	16.2	93.15
2	4.24	512	(34) 140	652	41	6.28	5.2	6.25
3	5.24	498	(17) 157	655	3	0.46	2.6	0.45
4	6.24	498	(1) 158	656	1	0.15	0.2	0.15
計							24.02	100

「枯損したもの欄中()は当月枯損本数、下段数は累加枯損本数を示す」

B. 国頭礫層砂壤土

調査回数	調査月日	正常に生育したものの A	枯損したものの B	全発芽 C = A+B	当月発芽したものの		全発芽に対する枯損 (%)	芽 当 月 総 発 芽 (%)
					本数 D	D/C (%)		
1	3.14	506	(94)	600	600	100	14.4	91.74
2	4.24	507	(31) (125)	632	32	5.06	4.7	4.89
3	5.24	523	(4) (129)	652	20	3.07	0.6	3.06
4	6.24	524	(1) (130)	654	2	0.31	0.1	0.31
計							19.8	100

C. 古生紀石灰岩土壌

調査回数	調査月日	正常に生育したものの A	枯損したものの B	全発芽 C = A+B	当月発芽したものの		全発芽に対する枯損 (%)	芽 当 月 総 発 芽 (%)
					本数 D	D/C (%)		
1	3.14	554	(69)	623	623	100	10.8	97.19
2	4.24	533	(34) (103)	636	13	2.04	5.3	2.03
3	5.24	497	(40) (143)	640	4	0.63	6.2	0.62
4	6.24	489	(9) (152)	641	1	0.16	1.4	0.16
計							23.7	100

D. 国頭礫層埴質壤土

調査回数	調査月日	正常に生育したものの A	枯損したものの B	全発芽 C = A+B	当月発芽したものの		全発芽に対する枯損 (%)	芽 当 月 総 発 芽 (%)
					本数 D	D/C (%)		
1	3.14	492	(120)	612	612	100	18.6	94.88
2	4.24	475	(45) (165)	640	28	4.37	7.0	4.34
3	5.24	459	(19) (184)	643	3	0.47	2.9	0.47
4	6.24	457	(4) (188)	645	2	0.31	0.6	0.31
計							29.1	100

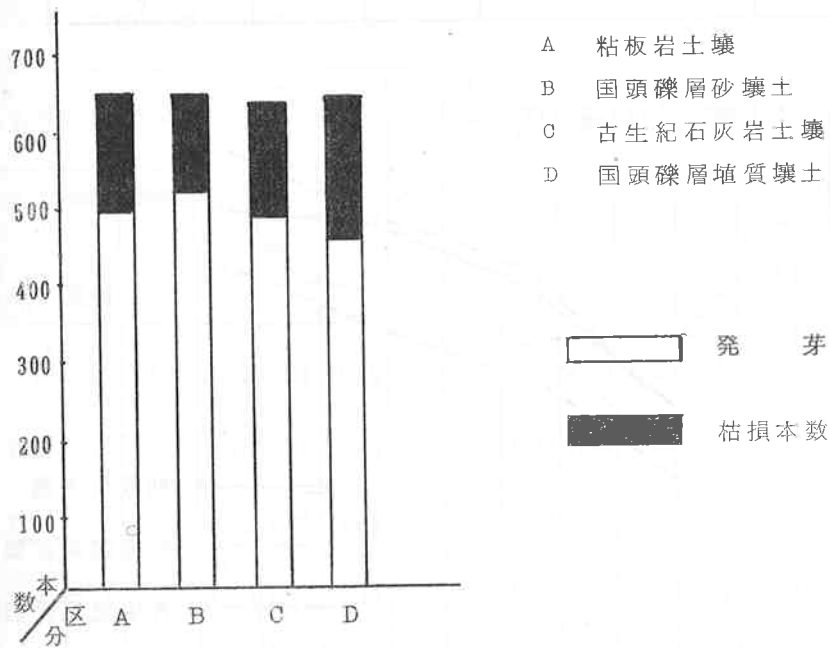
2) 枯損について

枯損状態についてはオ2表、オ1図に示されるとおりであるが、オ2報で報じたように苗木の枯損は3月～4月にかけてもっとも多く、この期間に全枯損本数の84.5%が枯損している。

この原因については、温度及び降雨量等の季節的原因に基因するものと思われる。又各土壌間の全発芽に対する枯損率についてみるとA. 24.04%、B. 19.8%、C. 23.7% D. 29.1%、となっており、全体的に高い枯損率を示した。

このことは前記したように、苗畑の周囲に包護樹帯もなく、ほとんど風雨のふきさらし状態で育苗したためではなからうかと思われる。

オ1図 全発芽本数及び枯損本数

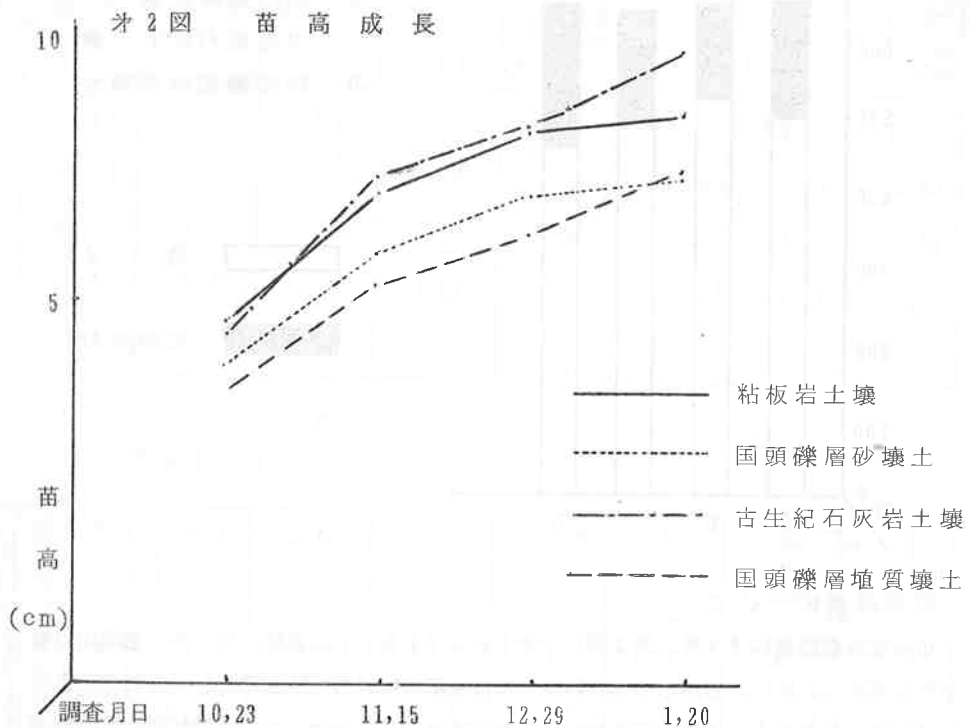


3) 苗高成長について

苗高成長の経過はオ3表、オ2図に示すとおりであるが、本試験に用いた土壌間には有意差は認められない。しかし苗畑の観察では古生紀石灰岩のC区が平均して良い成長を示している。このことは古生紀石灰岩の採土地が畑地として利用され、農道拡張のため崩壊した風化の進んだ心土であったためではなからうか。このようなことから苗高成長については、B区の国頭礫層砂壤土が他の区よりやや成長が劣る程度であり、各土壌間の差はほとんどないと考えてさしつかえがないと思われる。

才 3 表 苗 高 成 長

調査回数	苗 高 成 長 (cm)					
	調査月日	土 壤 別	A	B	C	D
1	1 0 月 2 3 日		4.76	4.18	4.59	3.88
2	1 1 月 2 5 日		6.45	5.67	6.67	5.28
3	1 2 月 2 9 日		7.25	6.43	7.38	5.90
4	1 月 2 0 日		7.50	6.67	8.32	6.77



5. 掘 取 調 査

1) 地 上 部 及 び 地 下 部 について

地上部及び地下部の状態は才 4 表に示すとおりである。

本試験の場合、全体的に苗高成長がおそく各区とも10 cm以下の成長である。したがってT/Rも1.99~2.83の範囲にある。このことは小苗では小の値を示すT/Rの性質をあらわしたものであり、各区の側根発生についてみるとA区が14.7本、D区が13.8本、C区が13.5本、B区が11.3本となっており、B区の苗高成長並びに地下部の発達のおくれがわかる。

このようなことから各処理別苗を苗高地上部、地下部などの試験結果からみて、本試験でもっとも成績のよいものはA、次いでC、D、Bの順になっている。

表4 土壌別苗木掘取調査

自 1967年1月24日

至 1968年1月22日

A. 粘板岩土壌(10本平均値)

プロット別	太さ及び長さ(cm) 重量						T/R	地上部の状態(%)		主幹と着葉量の比	根の状態(%)				
	地上長	地際直径	主根長	重量		全		主幹重量	着葉重量		主幹重量	側根重量	主根と側根の重量比	側根本数	側根総伸長(m)
				地上	地下										
1	7.84	0.22	37.5	2.18	0.88	3.06	0.31	1.87	6.03	0.40	0.48	1.20	13.6	155.1	
2	7.01	0.21	40.31	2.16	1.10	3.26	0.27	1.89	7.00	0.44	0.66	1.50	17.5	161.8	
3	7.75	0.21	34.00	2.23	1.26	3.49	0.26	1.98	7.61	0.39	0.38	2.25	14.4	135.7	
4	6.95	0.18	36.69	1.79	1.02	2.81	0.24	1.56	6.50	0.43	0.59	1.37	13.3	158.0	
計	29.55	0.82	148.50	8.37	4.26	12.62	1.08	7.30	27.14	1.66	2.61	6.32	58.8	660.6	
平均	7.39	0.20	37.11	2.09	1.07	3.15	1.99	0.27	1.82	6.78	0.41	0.65	1.58	14.7	165.2

B. 国頭礫層砂壤土

プロット別	太さ及び長さ(cm)			重 量			T/R	地上部の状態(%)		主幹と着葉量の比	根 の 状 態 (%)				
	地上長	地際直径	主根長	地上	地下	全		主幹重量	着用重量		主根重量	側根重量	主根と側根の重量比	側根本数	側根総伸長(cm)
1	4.74	0.14	32.29	0.86	0.33	1.19		0.09	0.77	8.55	0.13	0.20	1.53	10.7	99.0
2	7.46	0.23	37.69	3.27	0.86	4.13		0.34	2.93	8.61	0.45	0.41	0.91	13.3	123.0
3	5.79	0.18	33.37	1.66	0.56	2.22		0.18	1.48	8.22	0.26	0.30	1.15	10.2	99.7
4	3.94	0.13	31.00	0.65	0.34	0.99		0.07	0.58	8.28	0.15	0.20	1.33	11.0	91.0
計	21.93	0.68	134.35	6.44	0.09	8.53		0.68	5.76	33.66	0.99	1.11	4.92	45.2	412.7
平均	5.48	0.17	33.59	1.61	0.52	2.13	2.83	0.17	1.44	8.41	0.25	0.28	1.23	11.3	103.2

C. 古生紀石灰岩土壤

プロット別	太さ及び長さ(cm)			重 量 (%)			T/R	地上部の状態(%)		主幹と着葉量の比	根 の 状 態 (%)				
	地上長	地際直径	主根長	地上	地下	全		主幹重量	着用重量		主根重量	側根重量	主根と側根の重量比	側根本数	側根総伸長(cm)
1	6.57	0.21	26.16	2.09	0.87	2.96		0.36	1.73	4.80	0.33	0.54	1.63	12.5	99.5
2	10.55	0.28	36.15	4.45	1.99	6.44		0.68	3.78	5.55	0.80	1.20	1.50	16.8	168.9
3	9.02	0.24	32.91	3.82	1.25	5.07		0.48	3.34	6.95	0.67	0.59	0.88	13.0	126.2
4	8.39	0.21	31.50	2.55	1.16	3.71		0.36	2.20	6.11	0.44	0.72	1.63	11.8	130.2
計	34.53	0.94	126.72	12.91	5.27	18.18		1.88	11.05	23.41	2.24	3.05	5.64	54.1	524.8
平均	8.63	0.23	31.68	3.23	1.32	4.54	2.47	0.47	2.76	5.85	0.56	0.76	1.41	13.53	131.3

D. 国頭礫層植質壤土

プロット別	太さ及び長さ (cm)			重 量 (g)			T/R	地上部の状態 (g)		主幹と着葉量の比	根 の 状 態 (g)					
	地上	地際	主根	地上	地下	全		主幹	着用		主根	側根	主根と側根の重量比	側根本数	側根総伸長 (cm)	
	長	直径	長					重量	重量							重量
99.0	1	6.58	0.12	29.93	1.54	0.55	2.09	0.20	1.34	6.70	0.24	0.31	1.29	17.0	182.3	
123.0	2	5.94	0.08	33.57	1.67	0.70	2.37	0.19	1.48	7.78	0.28	0.42	1.50	12.9	138.5	
99.7	3	6.99	0.09	33.20	1.74	0.72	2.46	0.25	1.49	5.96	0.29	0.43	1.48	11.8	116.7	
91.0	4	6.11	0.07	34.65	1.09	0.55	1.64	0.17	0.93	5.47	0.27	0.28	1.03	13.6	125.8	
412.7	計	25.62	0.36	131.35	6.04	2.52	8.56	0.81	5.24	25.91	1.08	1.44	5.30	55.3	563.3	
103.2	平均	6.41	0.09	32.84	1.51	0.64	2.14	2.40	0.20	1.31	6.48	0.27	0.36	1.32	13.8	140.8

摘 要

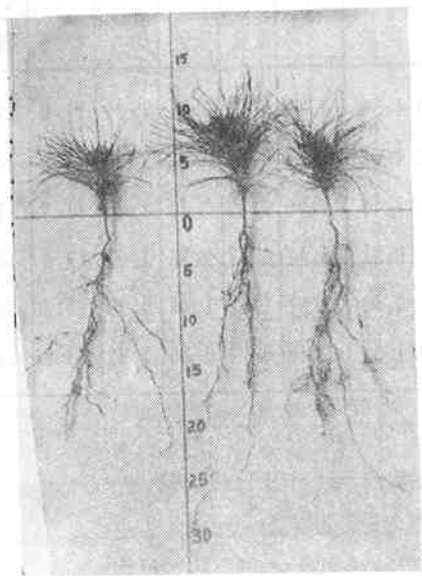
1. 才1報、才2報同様、用土の種類が発芽に与える影響は認められない。
2. 各土壤間の苗高、地下部の成長には有意差は認められない。
3. 試験結果を総体的にみて A > C > D > B の順によい。
4. 苗木の枯損は3~4月頃が最大である。

参 考 文 献

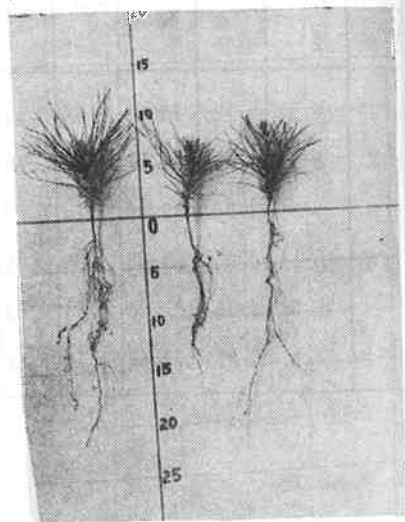
1. 琉球林業試験場 研究報告 No. 8
2. " " " " No. 9

参 考 写 真

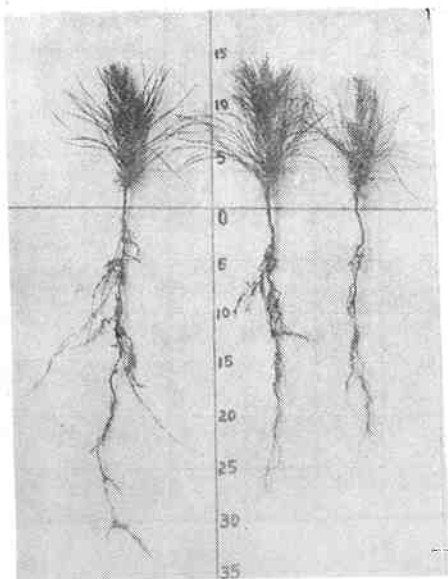
A 粘板岩土壤



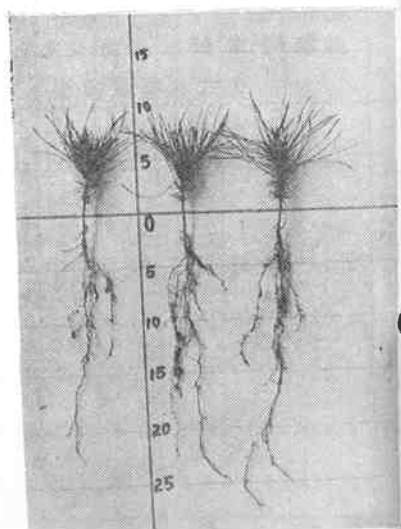
B 国頭礫層砂壤土



C 古生紀石灰岩土壤



D 国頭礫層埴質壤土



琉球林業試験場構内の植物

真栄城 守 金

はしがき

本試験場用地は名護町字名護知真嘉原内にあつて、1963年北部移転の計画が樹立され、該用地を選定し1964年度から3カ年継続で約15,000坪の用地を買収し、その一部に事務所その他附属建物が建設され、1966年10月1日に那覇(首里)から移転した。買収前本用地は水田、段畑、原野等から構成され、その儘では利用出来ないので水田は埋立て、段畑、原野は出来るだけ苗畑に利用出来るように毎年ブルドーザーで地均しをしている。

本用地は国頭礫層地帯で乾燥甚だしく瘠悪地であるため農作物は勿論その他の雑草木の生育も悪い所である。それで本用地内の植生を明らかにして置くことは今後本用地或は本用地に類似する地域の施業に資する点が多いと考えられたので取急ぎ参考資料として構内に自生する植物の外に移転後植栽した草木について調査し結果をまとめてみた。

採集調査の結果は73科237種を数えうるに至つた。その中で栽培種は98種で他は自生種である。なお調査期間中にないもの、現存するもので未見のもの、導入種(個人寄贈種子によるもの)中、学名、和名不明のもの等については今後調査し追記したい考えである。

科の配列科名及び和名は主として1967年改訂沖縄植物目録によつた。

採集標本の同定に當つて、北農校の園原咲也氏、文化財保護委員会の多和田真淳氏の御教示を受けたことに対しこゝに厚く謝意を表する次第である。

Pteridophyta 羊 齒 植 物

Schizaeaceae カニクサ科

Lygodium Japonicum SW.

カニクサ
(タイワンカニクサ)

方言名 チヌマチカンダ

Gleicheniaceae ウラジロ科

Dicranopteris dichotoma Bernh.

コシダ

方言名 ナラビー

Hymenophyllaceae コケシノブ科

Vandenboschia radicans Copel.

Var. *orientalis* H. Ito

ハイホラゴケ

Pteridaceae ワラビ科

Chobotium Barometz J. SM.

タカワラビ

方言名 タカワラビ

Pteridium aquilinum

Var. *latiusculum* Underw.

ワラビ

方言名 ワラビ

Sphenomeris chusana Copel.

ホラシノブ

Davalliaceae シノブ科

Nephrolepis auriculata Trimen

タマシダ

Aspidiaceae オシダ科

Thelypteris truncata K. Iwatsuki

ナタギリシダ

方言名 セーグサ

Gymnopermae 裸子植物

Cycadaceae ソテツ科

Cycas revoluta Thunb.

ソテツ

方言名 スホテイチャー

Podocarpaceae マキ科

Podocarpus macrphyllus D. Don

イヌマキ

栽培品 方言名 チャーギ

Araucariaceae ナンヨウスギ科

Araucaria Cunninghamii Sweet ナンヨウスギ
栽培品

Pinaceae マツ科

Pinus elliottii Engelm. スラツシユマツ
栽培品

Pinus densiflora S. et Z. アカマツ
栽培品

Pinus luchuensis Mayr リュウキユウマツ
方言名 マーチ

Pinus palustris Mill. ダイオウシヨウ
栽培品

Pinus Thunbergii Parl. クロマツ
栽培品

Pinus Massoniana Lamb. タイワンアカマツ
栽培品

Pinus Taeda L. テーダーマツ
栽培品

Pinus elliottii Engelm. フロリダスラツシユマツ
Var. densa Little and Dorman
栽培品

Pinus echinata Mill. エキナータマツ
栽培品

Pinus pinaster Ait. フランスカイガンシヨウ
栽培品

バギオマツ

学名不明 栽培品

Cupressaceae ヒノキ科

Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ
栽培品 方言名 ヒヌチ

Chamaecyparis pisifera Endl. ヒムロ
(シモフリヒバ)

ニクサ
ダ

	栽培品	
<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl		
Var. <i>filifera</i> BEISSN. et HOCHST.		ヒヨクヒバ (シダレヒバ)
	栽培品	
<i>Cupressus Macnabiana</i> Murr.		マクナブイトスギ
	栽培品	

Angiospermae 被子植物

Dicotyledoneae 雙子葉植物

Archichlamydeae 古生花被区

Casuarinaceae モクマオウ科

Casuarina equisetifolia J. et G. Forst モクマオウ

栽培品 方言名 モクマオウ

Casuarina glauca Sieb.

グラウカモクマオウ

栽培品 方言名 モクマオウ

Myricaceae ヤマモモ科

Myrica rubra S. et Z.

ヤマモモ

方言名 ヤマムム

Betulaceae カバノキ科

Alnus formosana Makino

タイワンハンノキ

栽培品 方言名 ハンノキ

Moraceae クワ科

Ficus caulocarpa Miq.

オオバアコウ

栽培品

Ficus ereta Thunb.

イヌビワ

方言名 ナーソーギ

Ficus Microcarpa L. f.

ガジュマル

栽培品 方言名 ガジマル

Ficus pumila L.

オオイタビ

Ficus stipulata Thunb.

方言名 イシマチ
ヒメイタビ

Morus australis Poir.

方言名 イシマチ
シマグワ
方言名 クワーギ

Urticaceae イラクサ科

Boehmeria nivea Gaud.

カラムシ
方言名 マーウーバー

Pilea microphylla Liebm.

コゴメミズ

Polygonaceae タデ科

Polygonum chinense L.

ツルソバ
方言名 シーボージャー

Amaranthaceae ヒユ科

Alternanthera versicolor Regel

モヨウビユ
栽培品

Amaranthus mangostanus L.

ヒユ
方言名 ヒーナバー

Amaranthus spinosus L.

ハリビユ
方言名 ヒーナバー

Amaranthus tricolor L.

ハゲイトウ
栽培品

Celosia cristata L.

ケイトウ
栽培品

Nyctaginaceae オシロイバナ科

Bougainvillea glabra Choisy

ブーゲンベリア
栽培品

Bougainvillea spectabilis Willd.

イカダカズラ
栽培品

Ranunculaceae キンポウゲ科

Clematis grata Var. *ryukyuensis* Tamura

リュウキユウボタンズル

Clematis terniflora DC.

センニンソウ

Ranunculus sieboldii Miq.

シマキツネノボタン

Lauraceae クスノキ科

Cinnamomum Camphora Sieb.		クスノキ
	栽培品 方言名	クスヌチ
Cinnamomum Doederleinii Engl.		シバニツケイ
	方言名	ハーグワシバキ
Machilus Thunbergii S. et Z.		タブ
	方言名	タブ

Cruciferae アブラナ科

Brassica Juncea Cosson		カラシナ
	栽培品 方言名	トナー
Brassica oleracea L.		
Var. Capitata L.		タマナ
	栽培品 方言名	タマナ
Raphanus sativus Var. hortensis Backer		ダイコン
	栽培品 方言名	デークニ

Droseraceae モウセンゴケ科

Drosera Spathulata Labill.		コモウセンゴケ
----------------------------	--	---------

Pittosporaceae トベラ科

Pittosporum Tobira Ait.		トベラ (オキナワトベラ)
	方言名	トビラギ

Hamamelideceae マンサク科

Distylium racemosum S. et Z.		イスノキ
	栽培品 方言名	ユシギ
Liquidambar formosana Hance		フウ
	栽培品	

Rosaceae バラ科

Prunus Persica Batsch		モモ
	栽培品 方言名	ムム
Rhaphiolepis umbellata Mak.		
Var. hiiranensis (Kaneh) Hatusima		ヒイランシヤリンバイ
	方言名	テイカチャー

Rubus croceacanthus Lev. リュウキユウバライチゴ

方言名 イチュビ

Rubus Grayanus Maxim. リュウキユウイチゴ

方言名 タカイチュビ

Rubus Parvifolius L. ナワシロイチゴ

Rubus Sieboldii Bl. ホウロクイチゴ

方言名 ウフバイチュビ

Leguminosae マメ科

Acacia Confusa Merr. ソウシジユ

栽培品 方言名 ソウシジユ

Caesalpinia Pulcherrima Sw. オオゴチヨウ

栽培品

Erythrina Variegata Var. Merr. デイゴ

栽培品 方言名 デイグ

Lespedeza Cuneata D. Don. メトハギ

Leucaena leucocephala De wit. ギンゴウカン

栽培品 方言名 ギンネム

Medicago lupulina L. コメツブウマゴヤシ

Mucuna Pruriens Dc. フウキマメ

栽培品

Samanea Saman Merr. アメリカネム

栽培品

Vicia Faba L. ソラマメ

栽培品 方言名 トウマーミ

Vicia hirsuta S.F. Gray スズメノエンドウ

Oxalidaceae カタバミ科

Oxalis Corniculata L. カタバミ

方言名 メーハジチャー

<i>Oxalis Corymbosa</i> Dc.		ムラサキカタバミ
	方言名	ヤフワタ
	Polygalaceae ヒメハギ科	
<i>Polygala japonica</i> Houtt.		ヒメハギ
	Euphorbiaceae タカトウダイ科	
<i>Acalypha Wilkesiana</i> Muell.-Arg.		フクリンアカリハ
Var. <i>Macafeana</i> W.Miller		
	栽培品	
<i>Antidesma japonicum</i> S.et Z.		ヤマヒハツ
<i>Bichofia javanica</i> Bl.		アカギ
	栽培品 方言名	アカギ
<i>Breynia rhamnoides</i> Muell.-Arg.		オオシマコバンノキ
<i>Codiaeum Variegatum</i> Bl.		クロトン
	栽培品 方言名	クロトン
<i>Daphniphyllum Teijsmannii</i> Zoll.		ヒメユズリハ
	方言名	トモン
<i>Euphorbia Helioscopia</i> L.		トウダイグサ
<i>Glochidion obovatum</i> S.et Z.		カンコノキ
	方言名	カーラビズナー
<i>Glochidion Philippicum</i> C.B.Robins.		ケカンコノキ
	方言名	カーラビズナー
<i>Mallotus japonicus</i> Muell.-Arg.		アカメガシワ
	方言名	トツピイ
	Anacardiaceae ウルシ科	
<i>Rhus Succedanea</i> L.		ハゼノキ
	方言名	ハジギ
<i>Semecarpus Vernicifera</i> HAY.et KAWAKAMI		タイトウルシ
	栽培品	

Aquifoliaceae モチノキ科

<i>Ilex goshiensis</i> Hay.	ツゲモチ
<i>Ilex Mutchagara</i> Makino	シマイヌツゲ

Staphyleaceae ミツバウツギ科

<i>Euscaphis japonica</i> Kaniz	ゴンズイ
	方言名 ヤマバンキー

Elaeocarpaceae ホルトノキ科

<i>Elaeocarpus japonicus</i> S. et Z.	コバンモチ
	方言名 シダチグー
<i>Elaeocarpus Sylvestris</i> Poir.	ホルトノキ
	方言名 ターウルサー

Malvaceae アオイ科

<i>Hibiscus mutabilis</i> L.	フヨウ
	方言名 フユウ
<i>Hibiscus rosa-sinensis</i> L.	ブツソウゲ
	栽培品 方言名 アカバナ
<i>Hibiscus Syriacus</i> L.	ムクゲ
	栽培品
<i>Hibiscus tiliaceus</i> L.	オオハマボウ
	方言名 ユーナ
<i>Thespesia Populnea</i> Soland.	サキシマハマボウ

Bombacaceae パンヤ科

<i>Ceiba pentandra</i> Var. <i>indica</i> Bakh.	インドワタノキ
	栽培品

Theaceae ツバキ科

<i>Camellia japonica</i> L.	ヤブツバキ
	栽培品 方言名 チバチ
<i>Camellia Sasanqua</i> Thunb.	サザンカ (オキナワサザンカ)

<i>Eurya japonica</i> Thunb.		ヒサカキ
	方言名	インギーマ
<i>Schima Wallichii</i> Subsp. <i>Iiukuensis</i> Bloemb.		ヒメツバキ
	方言名	イジュ
<i>Ternstroemia gymnanthera</i> Bedd.		モッコク
	栽培品	方言名
		イーク
Guttiferae	オトギリソウ科	
<i>Garcinia Subelliptica</i> Merr.		フクギ
	栽培品	方言名
		フクギ
Violaceae	スミレ科	
<i>Viola confusa</i> Champ.		タイワンコスミレ (リュウキュウコスミレ)
Caricaceae	パパイヤ科	
<i>Carica Papaya</i> L.		パパイヤ
	栽培品	方言名
		パパイヤ
Cactaceae	サボテン科	
<i>Epiphyllum strictum</i> Britt. et Rose		グツカビジン
	栽培品	
<i>Opuntia Vulgaris</i> Mill.		ヒラウチワ
	栽培品	
Elaeagnaceae	グミ科	
<i>Elaeagnus glabra</i> Thunb.		ツルグミ
	方言名	クービ
Lythraceae	ミソハギ科	
<i>Lagerstroemia indica</i> L.		サルスベリ
	栽培品	
Myrtaceae	フトモモ科	
<i>Melaleuca Leucadendron</i> L.		カユプテ
	栽培品	
<i>Psidium Guajava</i> L.		バンジロウ
	方言名	バンシルー

Rhodomyrtus tomentosa Hassk.		テンニンカ
	方言名	カブトングワー
Syzygium buxifolium Hook. et Arn.		アデク
	方言名	アデイク
Melastomataceae	ノボタン科	
Melastoma candidum D. Don		ノボタン
Araliaceae	ウコギ科	
Aralia elata Seem.		タラノキ
	方言名	ダラギ
Dendropanax trifidus Makino		カクレミノ
	方言名	ユグル
Schefflera octophylla Harms		フカノキ
	方言名	アサグル
Umbelliferae	セリ科	
Apium Ammi urban		マツバゼリ
Centella asiatica urban		ツボグサ
	方言名	ボンボロウ
Hydrocotyle sibthorpioides Lam.		チドメグサ
Metachlamydeae	後生花被区	
Ericaceae	ツツジ科	
Rhododendron Scabrum D. Don		
f. Coccineum wils		ケラマツツジ
	栽培品 方言名	チチジ
Vaccinium wrightii A. Gray		ギイマ
	方言名	ギイマ
Primulaceae	サクラソウ科	

Anagallis arvensis L. f. Caerulea Baumg.		ルリハコベ
	方言名	ハチコウミンナ
Ebenaceae	カキノキ科	
Diospyros ferra Var. buxifolia Bakh.		リュウキユウコクタン
	方言名	クルチ
Symplocaceae	ハイノキ科	
Symplocos japonica Var. Nakaharai Hayata		ナカハラクロキ
	方言名	クルポー
Oleaceae	モクセイ科	
Ligustrum japonicum Thunb.		ネズミモチ
	方言名	サーターギ
Ligustrum linkinense koidz.		オキナワイボタ
Osmanthus enervius Masamune et Mori		ナンゴクモクセイ
Loqaniaceae	フジウツギ科	
Buddleia Lindleyana Fortune		リュウキユウフジウツギ
	栽培品	
Apocynaceae	キョウチクトウ科	
Catharanthus roseus G. Don		ニチニチソウ
	栽培品	
Nerium indicum Mill.		キョウチクトウ
	栽培品	
Plumeria acuminata Ait.		インドソケイ
	栽培品	
Boraqinaceae	ムラサキ科	
Bothriospermum tenellum fisch. et Mey.		ハナイバナ
Verbenaceae	クマツヅラ科	
Callicarpa japonica Thunb.		オオムラサキシキブ
	方言名	ンムガーギ
Lippia nodiflora L. C. Richard		イワダレソウ

Labiatae	シン科		
Coleus Blumei Benth.			キランジン
		栽培品	
Solanaceae	ナス科		
Capsicum annuum L.			
Var. acuminatum Fingerh.			トウガラシ
		栽培品	方言名
			コウレーグス
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科		
Torenia Fournieri LIND			ハナウリクサ
		栽培品	
Veronica jabanica Bl.			ハマクワガタ
Veronica Persica Poir.			オオイヌノフグリ
Plantaginaceae	オオバコ科		
Plantago asiatica L.			オオバコ
		方言名	ヒラハグサ
Rubiaceae	アカネ科		
Galium Spurium Var echinospermum Hayek			ヤエムグラ
		方言名	ミンナ
Gardenia jasminoides Ellis			
f. grandiflora Mak.			クチナシ
		方言名	クチナシ
Mussaenda parviflora Miq.			コンロカ
Paederia scandens Merr.			ヘクソカズラ
Psychotria serpens L.			シラタマカズラ
Serissa foetida Comm.			ハクチヨウゲ
		栽培品	
Thysanosperrum diffusum Champ.			ヒヨウタンカズラ
		方言名	タジチユウカンダ

Caprifoliaceae スイカズラ科	
<i>Viburnum japonicum</i> spreng.	ハクサンボク
	方言名 ウメーシギー
Compositae キク科	
<i>Ageratum Conyzoides</i> L.	カッコアザミ
<i>Artemisia asiatica</i> Nakai	ニシヨモギ
	方言名 フーチバー
<i>Artemisia japonica</i> Thunb.	オトコヨモギ
<i>Aster indicus</i> L.	インドヨメナ
<i>Aster Subulatus</i> Michx.	ホウキギク
<i>Bidens Pilosa</i> L.	コセンダングサ
<i>Bidens Pilosa</i> L. Var. <i>minor</i> Scherff	シロバナセンダングサ
<i>Cirsium brevicaule</i> A. Gray	シマアザミ
	方言名 チバナー
<i>Crassocephalum crepidioides</i> S. Moore	ベニバナホロギク
<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> Nakai	
f. <i>pinnatilobum</i> Nakai	ハマナレン
	方言名 ンヂヤナ
<i>Dichrocephala bicolor</i> schlttd.	プクリユウサイ
<i>Erechtites hieracifolia</i> Var. <i>Cacalioides</i> Griesb.	ウソノタケダグサ
<i>Erigeron Canadensis</i> L.	ヒメムカシヨモギ
<i>Farfugium Japocum</i> Kitamura	ツワブキ
	方言名 シパンバ
<i>Ixeris debilis</i> A. Gray	ジシバリ

<i>Lactuca indica</i> L.	アキノノゲシ
<i>Solidago Virgaurea</i> Var. <i>insularis</i> Hara	シマコガネギク
<i>Sonchus oleraceus</i> L.	ハルノノゲシ
<i>Youngia japonica</i> Dc.	オニタビラコ

Monocotyledoneae 単子葉植物

Gramineae イネ科

<i>Apluda mutica</i> L.	オキナワカルカヤ
<i>Avena fatua</i> L.	カラスムギ
<i>Bambusa dolichoclada</i> Hayata	チヨウシチク
	栽培品
<i>Bambusa multiplex</i> Raeusch.	ホウライチク
	栽培品 方言名
<i>Bambusa oldhamii</i> Munro	リヨクチク
	栽培品
<i>Brachiaria mutica</i> stapf	パラグラス
	栽培品
<i>Cynodon Dactylon</i> pers.	ギヨウギシバ
<i>Dendrocalamus latifolius</i> Munro	マチク
	栽培品
<i>Digitaria adscendens</i> Henr.	メヒシバ

<i>Digitaria timorensis</i> Balansa		コメイシバ
<i>Imperata Cylindrica</i> Var. <i>major</i> G.E.Hubb.		チガヤ
	方言名	マカヤ
<i>Isachne globosa</i> O.Kuntze		チゴザサ
<i>Ischaemum aristatum</i> L.		タイワンカモノハシ
<i>Miscanthus Sinensis</i> Anderss.		ス ス キ
	方言名	グ シ チ
Var. <i>gracillimus</i> Hitchc.		イトススキ
	方言名	ハグワーグンチ
<i>Panicum repens</i> L.		ハイキビ
	方言名	ナジチュウ
<i>Paspalum orbiculare</i> G. Forst.		スズメノコビエ
<i>Pennisetum alopecuroides</i> Spreng.		チカラシバ
	方言名	シブグサ
<i>Pennisetum Purpureum</i> Schumach.		ナピアグラス
	栽培品	
<i>Phragmites Karka</i> Trin.		セイコノヨシ
<i>Phyllostachys aurea</i> Carr.		ホテイチク
	栽培品	
<i>Phyllostachys bambusoides</i> S. et Z.	方言名	チンプクダキ
		マダケ
	栽培品	
<i>Phyllostachys Makinoi</i> Hay.		ケイチク
	栽培品	
<i>Pleioblastus linearis</i> Nakai		リュウキユウチク
	方言名	ヤンバルダキ
<i>Pogonatherum crinitum</i> Kunth		イタチガヤ

Saccharum officinarum L.	方言名	ハーメーカーギ サトウキビ
Setaria viridis Beauv.	栽培品 方言名	サーターウージ
Var Pachystachys Makino et Nemoto		ハマエノコログサ
Sporobolus indicus Var. pallidiora T.Koyama		リュウキコウネズミノオ
Zoisia tenuifolia Willd.	方言名	テンブーグサ コウライシバ
	栽培品	
Cyperaceae		カヤツリグサ科
Carex breviculmis R. Br.		アオスゲ
Var. discoidea Bott		ヒメアオスゲ
Carex brunnea Thunb.		コゴメスゲ
Cyperus brevifolius Hassk.		アイダクグ
Cyperus rotundus L.		ハマスゲ
Gahnia tristis Nees	方言名	コウブシ クロガヤ
	方言名	アンダガヤ
Palmae		ヤシ科
Arecastrum Roman=offianum Becc.		ジヨオウヤシ
	栽培品	
Arenga Engleri Becc.		クロツグ
	栽培品 方言名	マーニ
Hypophorbe Verschafeltii H. wendl.		トツクリヤシモドキ
	栽培品	

<i>Livistona chinensis</i> R.Br.			
Var. <i>Subglobosa</i> Bece.			ピロウ
	方言名		クバ
<i>Phoenix Canariensis</i> Chabaud.			カナリーヤシ
	栽培品		
<i>Phoenix Roebelenii</i> O. Brien			シンノウヤシ
	栽培品		
<i>Ptychosperma elegans</i> Bl.			ユスラヤシ
	栽培品		
<i>Rhaphis excelsa</i> Henry			カンノンチク
	栽培品		
<i>Roystonea regia</i> Cook.			ダイオウヤシ
	栽培品		
<i>Trachycarpus Fortunei</i> Wendl.			シュロ
	栽培品	方言名	チグ
<i>Washingtonia filifera</i> Wendl.			ワシントンヤシ
	栽培品		
Araceae	サトイモ科		
<i>Colocasia esculentum</i> Schott			サトイモ
	栽培品	方言名	チンヌク
Bromeliaceae	アナナス科		
<i>Ananas Comosus</i> Merr.			パイナップル
	栽培品		
Commelinaceae	ツユクサ科		
<i>Tradescantia Virginiana</i> L.			ムラサキツユクサ
	栽培品		
<i>Zebrina Pendula</i> Schnizl.			ハカタガラクサ
	栽培品		
<i>Tradescantia albiflora</i> Kunth			シロフハカタガラクサ
	栽培品		

Liliaceae ユリ科

Aletris Spicata Frnch.			ソクシンラン
Allium macrostemon Bunge			ノビル
Allium tuberosum Rottler			ニラ
	栽培品	方言名	チリビラ
Dianella nemorosa Lam.			キキョウラン
		方言名	ビタ
Lilium longiflorum Thunb.			テツポウユリ
		方言名	ユリ
Ophiopogon jaburan Lodd.			ノシラン
	栽培品	方言名	ハブクサ
Sansevieria nilotica Bak.			チトセラン
	栽培品		
Scilla Scilloides Druce			ソルボ
Smilax china var. kuru Sakaguchi			オキナワサルトリイバラ
Yucca recurvifolia Salisb.			キミガヨラン

栽培品

Amaryllidaceae ヒガンバナ科

Furcraea gigantea Vent.			モリシヤスヘシブ
	栽培品		

Iridaceae アヤメ科

Belamcanda chinensis DC.			ヒオオギ
	栽培品		
Gladiolus Lemoinei Hort.			グラジオラス
		方言名	シヨウブ
Iris laevigata Fisch.			カキツバタ

栽培品

Musaceae バショウ科

Musa paradisiaca Subsp. Sapientum O.Kuntze パナナ
栽培品